

名曲 コンサート Vol.2



新田 孝

指揮

Takashi NITTA, conductor

東京芸術大学音楽学部卒業。東京交響楽団(音楽監督:秋山和慶)及び新日本フィル(音楽監督:小澤征爾)の第一ホルン奏者として在籍中より、指揮法を小澤征爾、秋山和慶、小林研一郎などに学び、ベルリン芸術大学、ケルン音楽大学にて研鑽。在独中には、カラヤン、ペーム、サヴァリッシュ、シュタイン、ヴァンゲンハイムなど世界的巨匠に薫陶を受ける。帰国後指揮者として独立。様々なオーケストラに客演しながら経験を重ねる。その間、ライナー・ホーネック(ウィーン・フィルコンサートマスター)、海野義雄(Vn)など及びオペラ歌手の菅英三子(Sop)、佐藤美枝子(Sop)、澤畑恵美(Sop)、山下敦子(Alt)、福井敬(Ten)などヴィルトゥオーゾと共演。自ら主宰するオーケストラNIPPON SYMPHONY(芸大・桐朋はじめ名門音大出身の精鋭)によるNIPPON SYMPHONY CONCERTシリーズ及び総合プロデュース中野雄とのWORLD PEACE CLASSIC CONCERTシリーズ〜華麗なる協奏曲の祭典〜(東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール等)は、今井信子(Va)、岡本誠司(Vn)、H・ミューラー(Vaウィーン響首席)、A・スコッチ(Vcウィーンフィル元首席)、深沢亮子(Pf)など世界的ソリストをはじめ、安定した活躍を続ける中堅及び中恵菜(Va元新日本フィル首席)、安達真理(Va日本フィル首席)、土岐祐奈(Vnドレスデン国立歌劇場)、高木凛々子(Vnソリスト)など輝かしい国際的ソリストとの共演を重ねる。尚、2025年7月、東京21世紀管弦楽団The CONCERTOにて世界一を誇る天才ホルン奏者福川伸陽(元N響首席)と共演。NIPPON SYMPHONY代表/芸術監督・常任指揮者など。令和7年11/9・終戦80年・英霊に感謝の誠を捧げよう「靖国神社奉納十周年記念演奏会」(靖国神社能楽堂)にて指揮予定。座右の書/亀井勝一郎:大和古寺風物誌、愛の無常について、鴨長明:方丈記、谷崎潤一郎:陰翳礼賛、三木清:人生論ノート、T・A・クンピス:キリストにならいて、ロマン・ロラン:ペートル・ヴェンの生涯、神谷恵美子訳:ハリール・ジブランの詩、モンテニョ:随想録など。尊敬する人:アッジの聖フランチェスコ。



©永友ヒロミ

上野優子

ピアノ

Yuko UENO, piano

桐朋女子高校音楽科を経て同大学2年次に渡欧、イモラ国際ピアノアカデミー(伊)ピアノ科ディプロマ取得、パリ・エコール・ノルマル音楽院ピアノ科コンサートイスト課程ディプロマをアルグリッチ、エル＝バシヤ、カツァリス各氏に認められ取得。'09年同音楽院室内楽科コンサートイスト課程ディプロマを審査員満場一致で取得。浜松国際ピアノアカデミーコンクール、フンメル国際ピアノコンクール他入賞多数。モーツァルト協会(伊)例会マチネー、都民芸術フェスティバルなど国内外でソリスト、室内楽者として出演する他、スロヴァキアフィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団などオーケストラ共演も多数。またイタリア国营テレビRAI3、スロヴァキアFM、NHK-FMなどに出演、国内外での活躍が音楽専門誌、新聞など各メディアで高く評価されている。現在、演奏活動の他、国内外でのコンクール審査、執筆、レクチャー等、多岐にわたる活動を展開。録音も積極的に行っており、5枚のCDが「レコード芸術」誌で準特選盤や準推薦盤、「音楽現代」誌で特選盤や注目盤、「stereo」誌で優秀録音盤にそれぞれ選出。プロコフィエフ:《シンデレラ》より10の小品Op.97、《シンデレラ》より6つの小品Op.102、2つのソナティナOp.54の楽譜をそれぞれ校訂、全音楽譜出版社より出版。'17年にスタートしたリサイタル「プロコフィエフ・ソナタ全曲シリーズ」は、注目のツルクスとして話題になっている。全日本ピアノ指導者協会(PTNA)、日本演奏連盟、日本ショパン協会各正会員。日本アレンスキー協会、日本・ロシア音楽家協会各運営委員、日本ピアノ教育連盟中央運営委員・国際部。後進の指導にも力を注いでおり、第42回ビティナ・ピアノコンペティション特別指導者賞、第24・25回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA指導者賞他受賞。昭和音楽大学専任講師。

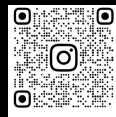
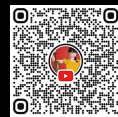


寺下真理子

ヴァイオリン

Mariko TERASHITA, violin

和歌山市出身。5歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部卒業後渡欧し、ブリュッセル音楽院修士課程修了。宮崎国際音楽祭にて巨匠アイザック・スターンの薫陶を受け、五嶋みどり氏と記念コンサート(大阪NHKホール)にて、共演を果たすなど幼少の頃より才能を発揮。第50回全日本学生音楽コンクール第2位。第2回東京音楽コンクール弦楽器部門第2位(ヴァイオリン最高位)となり注目を集めた。サイトウキネン室内楽勉強会、別府アルグリッチ音楽祭へ参加。キングレコードより「AVE MARIA」「ROMANCE」をリリース。「AVE MARIA」は、高音質ハイレゾサイトにて、全ジャンルの中から第1位を獲得。韓国の大手ハイレゾ音源配信サイト「groovers」にて、4位にランクイン。2枚目のアルバム「ROMANCE」は、韓国でも発売され、クラシック部門で週間1位を獲得する。アルバムは日本のみならず、韓国、台湾でも発売されている。これまでに、大衆文化奨励賞、平成29年度和歌山市文化奨励賞、令和4年度和歌山県文化奨励賞を授与された。東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、九州交響楽団等、日本の主要オーケストラと共演。2023年3月1日、ソニーミュージックレーベルズよりメジャー3枚目のアルバム「Dolce storia」をリリース。(関西フィルハーモニーとの共演)2024年1月「芸能人格付けチェック」にストラディヴァリウスの奏者として出演。その他、「さんま御殿」や「本能Z」など、テレビ番組にも多数出演。「第35回緑の愛護のつどい」にて秋篠宮皇嗣同妃殿下御臨席の中、ソリストとして演奏。近年は、阿川佐和子、デヴィ夫人等と、独自の朗読とクラシック音楽、和楽器とのコラボレーションコンサートなども積極的に行っている。現在、Nippon violinより、ストラディヴァリウスを貸与されている。さらに、株式会社EKKより、世界最高峰の弓の一つである、ドミニク・ペカットのヴァイオリン弓の貸与を受けている。



東京21世紀管弦楽団 Tokyo 21c Philharmonic

音楽を通して、多くの人達と手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めて行くプロフェッショナルなオーケストラとして2019年に設立。浮ヶ谷孝夫(ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト首席客演指揮者)を音楽監督に迎え、定期演奏会では、ベートーヴェン、ブラームス、ブルクナー、シューベルトといった重厚なドイツ音楽で圧倒的な成功を収めている。また、青少年のための音楽鑑賞会の依頼公演に出演するほか、教育的活動にも積極的参加し、多彩で幅広い音楽活動を展開している。クラシック音楽を広く普及させる定期公演、自主公演は東京国際フォーラムホールC、東京芸術劇場を拠点とし、紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティコンサートホールなど都内の主要なホールで活動をしている。2019年オスカー新人賞を受賞したテノールのステファン・ポップ、オペラ界のビッグスター、ファン・ディエゴ・フロレス、ヴィットリオ・グリゴロとの共演。2021年、オペラシティにて行われたベートーヴェン「第九」は、満席の聴衆を魅了し大成功を収めた。2022年6月、第18回ショパン国際コンクール第3位入賞のマルティン・ガルシア・ガルシアとの協奏曲のタベ、同年8月東京国際フォーラムホールAでのミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月オーチャードホールで「BBC PROMS」に出演し好評を博した。12月東京芸術劇場にて「第九」公演は多くの聴衆から高く評価された。2023年1月「ホセ・カレーラス&ブラジド・ドミンゴ」コンサートに出演し好評を博すなど、その活動の場を広げている。

